



2021年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(非連結)

2020年11月13日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社フジタコーポレーション
 コード番号 3370 URL <http://www.fujitacorp.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 遠藤 大輔

問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役

(氏名) 清水 清作

TEL 0144-34-1111

四半期報告書提出予定日 2020年11月13日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第2四半期の業績(2020年4月1日～2020年9月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第2四半期	1,935	16.3	101		107		162	
2020年3月期第2四半期	2,312	13.6	9		11		0	

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第2四半期	88.56	
2020年3月期第2四半期	0.50	

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年3月期第2四半期	3,035	60	2.0	88.21
2020年3月期	3,131	18	0.6	51.23

(参考)自己資本 2021年3月期第2四半期 60百万円 2020年3月期 18百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期		0.00		0.00	0.00
2021年3月期		0.00			
2021年3月期(予想)				0.00	0.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年3月期の業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

2021年3月期の連結業績予想につきましては、新型コロナウイルス感染拡大の影響を現時点において合理的に算定することが困難であることから未定としております。今後、業績予想の算定が可能となった段階で、速やかに公表いたします。なお、詳細につきましては、決算短信(添付資料)3ページ「1.当四半期決算に関する定性的情報 (3)業績予想等の将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年3月期2Q	1,921,500 株	2020年3月期	1,758,500 株
期末自己株式数	2021年3月期2Q	79 株	2020年3月期	79 株
期中平均株式数(四半期累計)	2021年3月期2Q	1,841,257 株	2020年3月期2Q	1,633,421 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想等の将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
第2四半期累計期間	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報等)	8
3. その他	9
継続企業の前提に関する重要事象等	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により社会経済活動が大幅に制限されたことにより急速に減速し、5月の緊急事態宣言解除後の政府及び地方公共団体による景気回復策を講じているものの、景気の回復のペースは非常に緩やかであります。

当社が属する飲食業・小売業におきましては、企業間の競争の激化に加え、原材料価格の上昇、慢性的な労働力不足に加え、新型コロナウイルス感染症による休業要請や営業時間短縮等の影響を大きく受けており、依然として厳しい経営環境で推移しております。

このような状況のもと当社は、新型コロナウイルス感染症に対する取組みとして、お客様と従業員の健康面の安全を守ることを最優先とし、各店舗のアルコールの設置、従業員の健康チェック、手洗いの徹底やマスクの着用、店内の定期的な換気等を徹底するとともに、3密や飛沫感染を防止するためのビニールシートやパーテーションの設置等の感染防止策を講じました。また、運営面におきましては、当社のオリジナルブランドであります「かつてん」のフランチャイズ加盟店の募集・出店するフランチャイザー業務と当社の既存店舗に新規デリバリー事業であります「デリズ」を組み込む方式やオリジナルブランドであります「かつてん」の一部店舗でデリバリーサービスを開始するなど、フランチャイザービジネスと自社の店舗運営の両立を目指してまいりました。

当第2四半期会計期間末における当社の展開業態は16業態、稼働店舗は69店舗（前年同四半期末、15業態71店舗）となりました。新型コロナウイルス感染症による影響が大きく、当第2四半期累計期間の業績は、売上高1,935,923千円（前年同四半期比16.3%減）、営業損失101,720千円（前年同四半期、営業利益9,030千円）、経常損失107,849千円（前年同四半期、経常利益11,627千円）、四半期純損失162,064千円（前年同四半期、四半期純利益184千円）となりました。

セグメント別の経営成績は、次のとおりであります。

a. 飲食部門

当第2四半期累計期間における飲食部門におきましては、新型コロナウイルス感染症に対する取組みを徹底しつつ、フランチャイジー事業はフランチャイズ本部主導の新商品の投入や販売促進活動を、オリジナルブランド事業は季節限定商品の開発及び販売を継続し、スマートフォンのアプリやLINE等で特定商品を訴求することで客単価増やリピート顧客の獲得、売上回復に努めてまいりました。

飲食部門の当第2四半期会計期間末の店舗数は、前年同四半期に比べ1店舗増の66店舗となりました。当第2四半期累計期間の売上高1,707,713千円（前年同四半期に比べ16.0%減）、セグメント損失85,671千円（前年同四半期、セグメント損失1,448千円）となりました。

b. 物販部門

当第2四半期累計期間における物販部門におきましては、飲食部門と同様にフランチャイズ本部主導によるスマートフォンアプリやLINE等を使用した販売促進活動に加えて、来店顧客向けの店内イベントの開催や、季節商品訴求のための売場づくりを行って、季節やイベントに合わせた商品提案を定期的実施してまいりました。

物販部門の当第2四半期会計期間末の店舗数は前年同四半期に比べ3店舗減の3店舗となりました。当第2四半期累計期間の売上高は228,210千円（前年同四半期に比べ18.3%減）、セグメント損失16,049千円（前年同四半期、セグメント利益10,478千円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第2四半期会計期間末における流動資産は713,453千円となり、前事業年度末に比べ49,608千円増加いたしました。これは主に現金及び預金が30,638千円増加したこと等によるものであります。固定資産は2,322,355千円となり、前事業年度末に比べ144,946千円減少いたしました。これは主に有形固定資産が82,405千円、投資その他の資産が65,585千円減少したこと等によるものであります。

この結果、総資産は、3,035,809千円となり、前事業年度末に比べ95,338千円減少いたしました。

(負債)

当第2四半期会計期間末における流動負債は782,616千円となり、前事業年度末に比べ24,293千円増加いたしました。これは主に1年内返済予定の長期借入金が41,601千円増加したこと等によるものであります。固定負債は2,313,319千円となり、前事業年度末に比べ40,701千円減少いたしました。これは主に長期借入金が43,000千円減少したこと等によるものであります。

この結果、負債合計は、3,095,935千円となり、前事業年度末に比べ16,408千円減少いたしました。

(純資産)

当第2四半期会計期間末における純資産合計は△60,126千円となり、前事業年度末に比べ78,929千円減少いたしました。これは主に資本金及び資本剰余金がそれぞれ41,503千円増加したものの、四半期純損失162,064千円を計上したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は、△2.0%（前事業年度末は0.6%）となりました。

(3) 業績予想等の将来予測情報に関する説明

2021年3月期の業績予想につきましては、新型コロナウイルス感染症の拡大による影響が業績に与える未確定な要素が多く、適正かつ合理的な数値の算出が困難なことから未定としております。今後の事業の進捗を踏まえ、合理的な算出が可能になり次第、速やかに開示いたします。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2020年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	360,160	390,798
売掛金	162,565	170,182
商品及び製品	14,400	15,938
原材料及び貯蔵品	44,431	48,117
その他	82,287	88,415
流動資産合計	663,844	713,453
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	950,950	894,559
工具、器具及び備品(純額)	106,350	90,261
土地	573,649	573,649
その他(純額)	39,885	29,961
有形固定資産合計	1,670,836	1,588,431
無形固定資産	156,650	159,694
投資その他の資産		
投資有価証券	35,546	36,900
長期前払費用	16,774	16,455
敷金及び保証金	550,400	492,387
その他	46,065	37,458
貸倒引当金	△8,971	△8,971
投資その他の資産合計	639,815	574,230
固定資産合計	2,467,302	2,322,355
資産合計	3,131,147	3,035,809
負債の部		
流動負債		
買掛金	167,304	179,911
短期借入金	279,911	279,911
1年内返済予定の長期借入金	1,399	43,000
未払法人税等	19,701	19,036
資産除去債務	7,000	—
店舗閉鎖損失引当金	5,300	1,233
その他	277,706	259,523
流動負債合計	758,322	782,616
固定負債		
長期借入金	2,220,825	2,177,825
資産除去債務	18,258	18,270
その他	114,937	117,222
固定負債合計	2,354,021	2,313,319
負債合計	3,112,343	3,095,935

(単位:千円)

	前事業年度 (2020年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2020年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	659,237	700,740
資本剰余金	318,786	360,289
利益剰余金	△958,410	△1,120,475
自己株式	△53	△53
株主資本合計	19,559	△59,498
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△1,647	△990
評価・換算差額等合計	△1,647	△990
新株予約権	891	362
純資産合計	18,803	△60,126
負債純資産合計	3,131,147	3,035,809

(2) 四半期損益計算書

(第2四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
売上高	2,312,736	1,935,923
売上原価	821,776	746,635
売上総利益	1,490,960	1,189,288
販売費及び一般管理費	1,481,930	1,291,009
営業利益又は営業損失(△)	9,030	△101,720
営業外収益		
受取利息	138	68
受取配当金	605	603
不動産賃貸料	88,017	81,946
受取保険金	555	333
貸倒引当金戻入額	13,160	—
その他	2,088	5,480
営業外収益合計	104,565	88,432
営業外費用		
支払利息	31,191	28,756
不動産賃貸原価	67,890	64,742
その他	2,886	1,061
営業外費用合計	101,968	94,560
経常利益又は経常損失(△)	11,627	△107,849
特別利益		
資産除去債務戻入益	—	4,889
店舗閉鎖損失引当金戻入額	—	1,919
助成金収入	—	3,322
固定資産売却益	—	5,078
特別利益合計	—	15,208
特別損失		
固定資産除却損	1,201	4,246
店舗閉鎖損失	4,047	10,928
本社移転費用	327	—
契約解除損失	—	32,610
店舗閉鎖損失引当金繰入額	2,400	—
新型コロナウイルス感染症による損失	—	11,512
特別損失合計	7,976	59,297
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	3,651	△151,938
法人税、住民税及び事業税	3,466	10,126
法人税等合計	3,466	10,126
四半期純利益又は四半期純損失(△)	184	△162,064

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失 (△)	3,651	△151,938
減価償却費	79,786	74,598
店舗閉鎖損失	4,047	10,928
店舗閉鎖損失引当金の増減額 (△は減少)	2,400	△1,919
資産除去債務戻入益	—	△4,889
契約解除損失	—	32,610
受取利息及び受取配当金	△743	△672
新型コロナウイルス感染症による損失	—	11,512
助成金収入	—	△3,322
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△13,160	—
支払利息	31,191	28,756
本社移転費用	327	—
固定資産除売却損益 (△は益)	1,201	△831
売上債権の増減額 (△は増加)	39,253	△7,617
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△4,675	△6,912
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	13,707	△4,648
仕入債務の増減額 (△は減少)	△8,933	12,606
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△735	2,145
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	△14,187	△10,155
預り保証金の増減額 (△は減少)	2,175	5,390
小計	135,306	△14,359
利息及び配当金の受取額	743	672
利息の支払額	△33,339	△30,297
本社移転費用の支払額	△327	—
法人税等の支払額	△6,280	△6,944
営業活動によるキャッシュ・フロー	96,102	△50,929
投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資有価証券の取得による支出	△945	△696
有形固定資産の売却による収入	—	19,900
有形固定資産の取得による支出	△61,780	△18,760
無形固定資産の取得による支出	△447	△5,454
短期貸付金の増減額 (△は増加)	740	470
長期貸付金の回収による収入	900	8,607
敷金及び保証金の回収による収入	55,778	26,303
資産除去債務の履行による支出	△554	△2,110
その他	△14,728	△24,732
投資活動によるキャッシュ・フロー	△21,036	3,527
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増減額 (△は減少)	△5,890	—
長期借入金の返済による支出	△86,507	△1,399
リース債務の返済による支出	△2,982	△2,982
株式の発行による収入	—	82,478
その他	△207	△55
財務活動によるキャッシュ・フロー	△95,587	78,040
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△20,521	30,638
現金及び現金同等物の期首残高	284,907	360,160
現金及び現金同等物の四半期末残高	264,386	390,798

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2020年6月にEVO FUNDから第三者割当増資の払込みを受けました。この結果、当第2四半期累計期間において資本金及び資本準備金がそれぞれ41,503千円増加し、資本金が700,740千円、資本準備金が360,289千円となっております。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	飲食	物販	合計
売上高			
外部顧客への売上高	2,033,242	279,494	2,312,736
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—
計	2,033,242	279,494	2,312,736
セグメント利益又は損失(△)	△1,448	10,478	9,030

(注)セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の営業利益と一致しております。

II 当第2四半期累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	飲食	物販	合計
売上高			
外部顧客への売上高	1,707,713	228,210	1,935,923
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—
計	1,707,713	228,210	1,935,923
セグメント損失(△)	△85,671	△16,049	△101,720

(注)セグメント損失(△)は、四半期損益計算書の営業損失と一致しております。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

当社は、2014年4月に策定した経営改善計画に基づき、不採算店舗及び事業からの撤退や業態変更を進め、店舗及び事業の整理に一定の目途がついたことから、慎重な判断のもと、新規出店、業態変更、大規模改装等に少くもつづき、店舗数及び事業規模の回復を図ってまいりました。

2019年4月より始めました新たな経営改善計画においては、2016年3月に株式会社アスラポート・ダイニング(現株式会社JFLAホールディングス)と締結した「業務資本提携契約」をもとに、共同事業として進めてまいりました。当社のオリジナルブランドであります「かつてん」のフランチャイザー事業、また、「らーめんおっぺしゅん」並びにタピオカドリンク専門店「瑪蜜黛(モミトイ)」の北海道・東北地区のエリアフランチャイザー事業の拡大、更に既存又は新規業態の新たな店舗展開の双方で収益を確保することで収益体質を確立してまいります。

当第2四半期累計期間におきましては、新型コロナウイルス感染症の影響による休業要請や営業時間短縮等により、売上高1,935,923千円となり前年同四半期に比べ16.3%減少し、営業損失101,720千円、四半期純損失162,064千円を計上し、厳しい経営環境で推移しております。また、当社の有利子負債は2,511,474千円と総資産の82.7%を占め、手元流動性に比して高水準にあるため、取引金融機関から返済条件の緩和を継続して受けている状況にあります。これにより、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

当社は、当該重要事象等を解消すべく、事業面及び資金面において対応策を講じております。

事業面に置かしましては、期間限定商品やサービスの訴求、スマートフォンアプリやクーポンを使用した効率的な販売促進活動による収益確保と販売管理費及び設備投資の抑制等のコスト削減を両立し、収益力の強化に努めてまいります。当社のオリジナルブランドであり、フランチャイザーとして加盟店展開しております「かつてん」の積極的な加盟開発及び加盟店出店を進め、フランチャイザー事業を当社の収益の柱となる事業へと成長させてまいります。また、株式会社JFLAホールディングスと締結した「業務資本提携契約」により、飲食事業、卸売事業、製造・販売事業を組み合わせた販売コスト削減及び新規事業展開を進めてまいります。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の拡大による業績に与える影響は大きく、その収束の時期や収束後の消費活動の見通し等は依然として不透明であり、財政状態並びに経営成績及びキャッシュ・フローの状況に与える影響を合理的に算出することが困難な状況が継続しております。当社はこの状況下において、顧客や従業員の健康面の安全に万全な対策を講じるとともに、来店客数の減少に伴う売上高減少への対策として、テイクアウトやデリバリーサービスに今後とも注力し、資金の流出を最小限にしながら収益の改善に努めてまいります。

資金面におきましては、当社の主力取引銀行の支援のもと、取引金融機関に対し、長期借入金元本返済の更なる緩和要請を行い、当面の返済猶予について同意を得ております。また、新型コロナウイルス感染症による今後の資金面に与える影響に関しても、主力取引銀行と適時状況と情報を共有しており、今後の状況変化に応じた柔軟な支援体制を得られる見込みであります。

当該金融支援及び事業遂行により財務体質の改善を図ってまいります。

これらの具体的な対応策を実施することにより、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められません。